

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/26		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003001	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	門司 和彦 / Kazuhiko Moji		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	門司 和彦 / Kazuhiko Moji		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	門司 和彦 / Kazuhiko Moji		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部 1年		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	moji.k273@gmail.com (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	10F 学部長室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2930		
担当教員オフィスアワー/Office hours	主: 月曜日の諸年次ゼミ終了後19時まで。 その他: メールで用件を知らせ、アポをとること。都合の良い時間に対応する。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	<b>【予習】</b> 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) <b>【復習】</b> 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	学生の興味を聞いてから、推薦図書を知らせる。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	なし。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考（URL）/Remarks（URL）	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
2	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
3	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
4	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
5	問題発見からリサーチクエストへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
6	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
8	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
9	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエストとその意義を提案書にまとめる
10	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
11	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

12	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う</p>
13	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習：調査データのブラッシュアップをする</p>
14	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する</p> <p>自習：グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
15	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする</p>
16	<p>まとめ</p> <p>レポート作成</p>

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/26		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003002	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	岩本 佳子		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	岩本 佳子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	岩本 佳子		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	keiko_iwamoto nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	総研棟10F 岩本研究室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜13 - 16時 火曜13 - 16時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へととぎやうとともに,論理的思考とその表現方法を習得することで,多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には,多文化社会学と高校までの学びとの関連,および他の学問分野との関連について学んだ後,受講生自らが立てた問いを,能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって,人文科学的な思考方法,グループワークの進め方,調査の計画と実施,文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から,大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また,カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに,多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って,ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に,この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; / Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; / Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; / It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%),各回の講義・作業への参加度合い(30%),学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前,事後学習の内容/Preparation & Review	<p>【予習】前回の講義を受け,次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】講義内容について,テキストや参考書を読んで復習し,理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ,それでもわからない点は友人や教員に質問し,解決すること。(2h)</p>		
キーワード/Keywords	大学での学び,カリキュラムと履修,資料収集,調査,グループワーク,プレゼンテーション,レポート・論文		

教科書・教材・参考書/Materials	<p>特定の教科書は使用しない。毎回の授業でレジュメおよび資料を配付します。</p> <p>参考書          戸田山 和久 (2012) 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで(NHKブックス)』          石黒 圭 (2012) 『論文・レポートの基本』(日本実業出版社)          山内志朗 (2001) 『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社)          小笠原喜康 (2018) 『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社)          佐藤望他編著 (2012) 『アカデミック・スキルズ 第2版: 大学生のための技術技法入門学生による学生のためのダメレポート脱出法』(慶應義塾大学出版)</p> <p>この他、講義の際に適宜、参考資料を提示する。          レポート・論文についての基本的考え方, 研究テーマの決め方, リサーチエッセイの立て方, 先行研究の意義, 文献収集法, 引用の方法, 参考文献表の作成法, 広義のフィールド調査の基本的考え方, プレゼンテーションの基礎に関する章をできるだけ含むものが、参考書籍として読むに望ましい。選択した教科書に含まれない要素については担当教員の方で、プリント配布等によって補う。</p>
受講要件 (履修条件) /Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先          (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948          (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp          (担当教員各位: 追記がある場合は上記を残し、この下にご記入下さい)</p>
備考 (URL) /Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに: オリエンテーション 授業: 1. 担当教員と受講生の自己紹介, 2. 大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 1. 学生便覧を熟読し, 質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業: 1. 質問への回答, 2. 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る, 3. 批判的思考の重要性と批判的思考のやり方について学ぶ 自習: 1. 卒業までの学びの設計図を描く 時間外: 個人面談, 2. いろいろなことに疑問を持ち, それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業: 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習: 2自習-2の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業: 1. オリジナリティ, 著作権, 引用, 不正行為, 電子メール, 教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習: 1. 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
第5回	問題発見からリサーチエッセイへ授業: 1. 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習: 1. テーマの絞り込みと2. 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業: 1. 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習: 2. 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業: 1. リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ Aレポート論文執筆の基本的考えを知る
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業: 1. 文献表についてのディスカッション, 2. リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習: 1. 文献表のブラッシュアップ, 2. 主要文献の収集と図書館の活用実践, 3. 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業：1. 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習：1. 8自習-3の続き, 2. リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 1. 9自習-2に基づいて全員の前で提案を行う, 2. グループ調査のテーマを決め, 班分けする
第11回	文献調査とフィールド調査授業： 1. 調査計画についてのディスカッション, 2. 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との連接） 自習：1. 文献調査を行い, 手分けして読む, 2. 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業：1. 予備調査の手応えを報告する, 2. プレゼンテーションの基本を知る 自習：1. グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有, 2. 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習：調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業：1. 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う, 2. ディスカッションに参加する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業：1. プレゼンテーションについてのまとめ, 2. レポート・論文を書くためのポイントを確認する
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/26		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003003	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	TOET RUDY		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	TOET RUDY		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	TOET RUDY		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	rudytoet nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Office	総合教育研究棟5階ライティングセンター・留学相談室		
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours	授業の直後またはメールにて質問を受け付ける。メールによりアポイントメントを取ることもできる。		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; / Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; / Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; / It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	教科書は指定しない。授業で適宜に資料を配布する。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考（URL）/Remarks（URL）	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
2	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
3	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
4	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
5	問題発見からリサーチクエスチョンへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
6	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
8	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
9	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
10	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
11	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
12	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う



13	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習：調査データのブラッシュアップをする</p>
14	<p>研究発表会</p> <p>授業：他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する</p> <p>自習：グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
15	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業：プレゼンテーションについてのまとめ、レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p> <p>自習：レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする</p>
16	<p>まとめ</p> <p>レポート作成</p>

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/26		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003004	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	NURGALIYEVA LYAILYA		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	NURGALIYEVA LYAILYA		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	NURGALIYEVA LYAILYA		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	lyailya.nurgaliyeva nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は @に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパス内総合研究棟 5階(助教室)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2938		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の前か後か		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(30%), 各回の議論・作業への参加度合い(10%), 学期末レポート(60%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	<p>【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所を目を通しておくこと。(2h)  【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		

教科書・教材・参考書/Materials	石黒 圭(2012)『論文・レポートの基本』(日本実業出版社) 新田 誠吾(2019)『はじめてでも、ふたたびでも、これならできる! レポート・論文のまとめ方』(すばる舎) 上記書籍は推奨する書籍であり、各担当教員が別途指定をする。レポート・論文についての基本的考え方、研究テーマの決め方、リサーチエスションの立て方、先行研究の意義、文献収集法、引用の方法、参考文献表の作成法、広義のフィールド調査の基本的考え方、プレゼンテーションの基礎に関する章をできるだけ含むものが望ましい。選択した教科書に含まれない要素については担当教員の方で、プリント配布等によって補う。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp (担当教員各位: 追記がある場合は上記を残し、この下にご記入下さい)
備考(URL)/Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに: オリエンテーション 授業: 1. 担当教員と受講生の自己紹介, 2. 大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 1. 学生便覧を熟読し, 質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業: 1. 質問への回答, 2. 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習: 1. 卒業までの学びの設計図を描く 時間外: 個人面談, 2. いろいろなことに疑問を持ち, それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業: 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習: 2自習-2の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業: 1. オリジナリティ, 著作権, 引用, 不正行為, 電子メール, 教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習: 1. 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
第5回	問題発見からリサーチエスションへ授業: 1. 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習: 1. テーマの絞り込みと2. 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業: 1. 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習: 2. 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業: 1. リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ Aレポート論文執筆の基本的考えを知る
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業: 1. 文献表についてのディスカッション, 2. リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習: 1. 文献表のブラッシュアップ, 2. 主要文献の収集と図書館の活用実践, 3. 文献の読解
第9回	調査から研究へ 授業: 1. 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習: 1. 8自習-3の続き, 2. リサーチエスションとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業: 1. 9自習-2に基づいて全員の前で提案を行う, 2. グループ調査のテーマを決め, 班分けする

第11回	<p>文献調査とフィールド調査授業： 1. 調査計画についてのディスカッション, 2. 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との連接）</p> <p>自習：1. 文献調査を行い, 手分けして読む, 2. 予備的な調査を行う</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業：1. 予備調査の手応えを報告する, 2. プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習：1. グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有, 2. 本調査を行う</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習：調査データのブラッシュアップをする</p>
第14回	<p>研究発表会</p> <p>授業：1. 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う, 2. ディスカッションに参加する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業：1. プレゼンテーションについてのまとめ, 2. レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p>
第16回	<p>まとめ レポート作成</p>

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/27		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003005	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	野上 建紀 / Takenori Nogami		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	nogami-takenori@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Office	総合教育研究棟11階 野上研究室		
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours	随時。メールでアポをお願いします。		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へととぎやうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; Activities to check the degree of comprehension of the contents for the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	初回授業で紹介いたします。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考（URL）/Remarks（URL）	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
2	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
3	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
4	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
5	問題発見からリサーチクエストへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
6	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
8	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
9	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエストとその意義を提案書にまとめる
10	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
11	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

12	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う</p>
13	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習： 調査データのブラッシュアップをする</p>
14	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する</p> <p>自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
15	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする</p>
16	<p>まとめ</p> <p>レポート作成</p>

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/27		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003006	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	河村 有教		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	河村 有教		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	河村 有教		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年次(割り振られた担当教員を各自確認してください)		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	kawamura nagasaki-u.ac.jp ( @ )		
担当教員研究室 / Office	総合研究棟(多文化社会学部研究科・多文化社会学部)11階		
担当教員TEL / Tel	095-819-2953		
担当教員オフィスアワー / Office hours	事前に連絡してアポイントを取ってください		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; / Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; / Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; / It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(40%), 各回の講義・作業への参加度合い(30%), 学期末レポート(30%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		



教科書・教材・参考書/Materials	<p>【教科書】漢字文献情報処理研究会編『大学で学ぼう 知のスキルアップ15』(好文出版) ISBN 978-4-87220-160-4 C1000(本体価格1800円)</p> <p>【参考書】戸田山 和久(2012)『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHKブックス)</p> <p>石黒 圭(2012)『論文・レポートの基本』(日本実業出版社)</p> <p>山内 志朗(2001)『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社)</p> <p>参考書 ~ は多文化社会学部で「初年次セミナー」という授業において推奨されている書籍です。図書館等で各自借りてみてください。</p> <p>選択した教科書に含まれない要素については担当教員の方で、プリント配布等によって補う。</p>
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp (担当教員各位: 追記がある場合は上記を残し、この下にご記入下さい)</p>
備考(URL)/Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに: オリエンテーション 授業: 1. 担当教員と受講生の自己紹介, 2. 大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 1. 学生便覧を熟読し, 質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業: 1. 質問への回答, 2. 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習: 1. 卒業までの学びの設計図を描く 時間外: 個人面談, 2. いろいろなことに疑問を持ち, それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業: 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習: 2自習-2の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業: 1. オリジナリティ, 著作権, 引用, 不正行為, 電子メール, 教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習: 1. 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
第5回	問題発見からリサーチクエストへ授業: 1. 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習: 1. テーマの絞り込みと2. 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業: 1. 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習: 2. 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業: 1. リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ Aレポート論文執筆の基本的考えを知る
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業: 1. 文献表についてのディスカッション, 2. リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習: 1. 文献表のブラッシュアップ, 2. 主要文献の収集と図書館の活用実践, 3. 文献の読解
第9回	調査から研究へ 授業: 1. 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習: 1. 8自習-3の続き, 2. リサーチクエストとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業: 1. 9自習-2に基づいて全員の前で提案を行う, 2. グループ調査のテーマを決め, 班分けする

第11回	<p>文献調査とフィールド調査授業： 1. 調査計画についてのディスカッション, 2. 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との連接）</p> <p>自習：1. 文献調査を行い, 手分けして読む, 2. 予備的な調査を行う</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業：1. 予備調査の手応えを報告する, 2. プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習：1. グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有, 2. 本調査を行う</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習：調査データのブラッシュアップをする</p>
第14回	<p>研究発表会</p> <p>授業：1. 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う, 2. ディスカッションに参加する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業：1. プレゼンテーションについてのまとめ, 2. レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p>
第16回	<p>まとめ レポート作成</p>

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/27		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003007	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	a.guelbeyaz nagasaki-u.ac.jp (メールをする際は、 を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室 / Office			
担当教員TEL / Tel	095-819-2905		
担当教員オフィスアワー / Office hours	授業の前夜		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; Activities to check the degree of comprehension of the contents for the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	<p>戸田山 和久(2012)『新版 論文の教室 レポートから卒論まで(NHKブックス)  石黒 圭(2012)『論文・レポートの基本』(日本実業出版社)  山内志朗(2001)『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社)</p>		

受講要件 (履修条件) /Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
2	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
3	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
4	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
5	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
6	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
8	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
9	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめる
10	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
11	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

12	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う</p>
13	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習： 調査データのブラッシュアップをする</p>
14	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する</p> <p>自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
15	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする</p>
16	<p>まとめ</p> <p>レポート作成</p>

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/27		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003008	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	小松 悟 / Satoru Komatsu		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	小松 悟 / Satoru Komatsu		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	小松 悟 / Satoru Komatsu		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	skomatsu nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室 / Office	総合教育研究棟		
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours	事前にメールでのアポイントのこと		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; Activities to check the degree of comprehension of the contents for the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い・プレゼンテーション(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	<p>・河野哲也(2018)「レポート・論文の書き方入門」第4版、慶応義塾大学出版会  ・戸田山 和久(2012)『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHKブックス)</p>		

受講要件 (履修条件) /Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
2	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
3	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
4	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
5	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
6	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
8	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
9	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめる
10	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
11	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認(「リサーチ入門」との接続) 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

12	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う</p>
13	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習：調査データのブラッシュアップをする</p>
14	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する</p> <p>自習：グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
15	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする</p>
16	<p>まとめ</p> <p>レポート作成</p>



学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/27		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003009	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	谷川 晋一		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	谷川 晋一		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	谷川 晋一		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	shintanigawa nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は @に置き換える)		
担当教員研究室 / Office	総合教育研究棟10階		
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours	メール申請によるのみ対応		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へととぎやうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; Activities to check the degree of comprehension of the contents for the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書 / Materials	<p>下記の書籍を教科書として使用する。  戸田山 和久 (2012) 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス</p>		

受講要件 (履修条件) /Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1回: 4/13	はじめに: オリエンテーション 授業: 担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
2回: 4/20	問いを立てる 授業: 質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外: 個人面談、いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
3回: 4/27	資料収集の基礎 授業: 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習: 2自習- の続き
4回: 5/11	知のモラルとマナー 授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
5回: 5/18	問題発見からリサーチクエスションへ 授業: 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習: テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
6回: 5/25	本・論文を探す 授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
7回: 6/1	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習: 実際に文献表を作ってみる
8回: 6/8	リーディングと研究ノート作り 授業: 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習: 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解
9回: 6/15	調査から研究へ 授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習: 8自習- の続き、リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめる
10回: 6/22	グループ調査の設計 授業: 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
11回: 6/29	文献調査とフィールド調査 授業: 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認(「リサーチ入門」との接続) 自習: 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う

12回: 7/6	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業: 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、本調査を行う</p>
13回: 7/13	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業: 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習: 調査データのブラッシュアップをする</p>
14回: 7/20	<p>研究発表会</p> <p>授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する</p> <p>自習: グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
15回: 7/27	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業: プレゼンテーションについてのまとめ、レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p> <p>自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする</p>
16回	<p>まとめ</p> <p>レポート作成</p>

学期 / Semester	2021年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2021/04/08 ~ 2021/07/27		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード / Time schedule code	20210581003010	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	南 誠 / Minami Makoto		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	南 誠 / Minami Makoto		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	南 誠 / Minami Makoto		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 教養ゼミナール科目, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	lsk-minami nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は @に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Office	総合教育研究棟10階、南研究室		
担当教員TEL / Tel	095-819-2926		
担当教員オフィスアワー / Office hours	必ず事前にメールで連絡すること		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	<p>新入生を大学での学びの世界へととぎやうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Course goals	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	<p>主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society</p>		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	<p>A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 &lt;br&gt; Activities to check the degree of comprehension of the contents for the lesson or to think over  B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 &lt;br&gt; Activities involving others to think from various perspectives  C. 技能修得のために実践する活動 &lt;br&gt; Activities to practice for acquiring skills  D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 &lt;br&gt; Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems  E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 &lt;br&gt; Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above  F. 教員からの講義のみで構成される &lt;br&gt; It consists only of lectures from teachers</p>		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	<p>【予習】 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h)  【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)</p>		
キーワード / Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		

教科書・教材・参考書/Materials	戸田山 和久(2012)『新版 論文の教室 レポートから卒論まで(NHKブックス) 石黒 圭(2012)『論文・レポートの基本』(日本実業出版社) 山内志朗(2001)『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社) 上記書籍は推奨する書籍であり、各担当教員が別途指定をする。レポート・論文についての基本的考え方、研究テーマの決め方、リサーチエスションの立て方、先行研究の意義、文献収集法、引用の方法、参考文献表の作成法、広義のフィールド調査の基本的考え方、プレゼンテーションの基礎に関する章をできるだけ含むものが望ましい。選択した教科書に含まれない要素については担当教員の方で、プリント配布等によって補う。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考(URL)/Remarks (URL)	シラバスに変更が生じた場合は、授業中に説明する。
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
2	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
3	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
4	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
5	問題発見からリサーチエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
6	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
8	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
9	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチエスションとその意義を提案書にまとめる

10	<p>グループ調査の設計</p> <p>授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする</p> <p>自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する</p>
11	<p>文献調査とフィールド調査</p> <p>授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）</p> <p>自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う</p>
12	<p>プレゼンテーション入門(1)</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う</p>
13	<p>プレゼンテーション入門(2)</p> <p>授業：文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする</p> <p>自習：調査データのブラッシュアップをする</p>
14	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する</p> <p>自習：グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
15	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする</p>
16	<p>まとめ</p> <p>レポート作成</p>